崩壊3rd？ああ、最初から死亡フラグ満載のあれね(白目)

(ホモじゃ)ないです

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

この二次創作を描いた理由

??

崩壊３ｒｄの二次創作を読みたい！

←

ファッ!?少なスギィ！

←

よっしゃ書いてやらぁ！

と、いう完全な趣味に走って作った作品です。

駄文、駄作、ばっちこい！て人以外は見ない方がいいかと、

エタらない程度にがんばりまふ。

目　次

ハジマリ
このクソッタレな世界の中で ―― 1
クソッタレな世界は ―― 3
クソッタレな世界ヲ ―― 6
ホウカイ
アタラシイ　世界 ―― 9

ハジマリ
このクソッタレな世界の中で

世の中クソだ、そう思って生きてきた。
努力は報われず、理解者はおらず、応援してくれる人もいなく、
心安らぐ場所もない、何も頼れない。
昔の友達は連絡をいれても反応がなく、
そもそも番号を変えているのか繋がりもしない。
こんなことを言っているとこれまでに何か悪事を働いた人と思うかもしれないが、私は何も悪事を働いていない。

成績は悪いわけでもなく国立〇〇大学医学部を主席で卒業しており優秀、　他にも趣味で機会学や薬学、地学や歴史、物理学などなども大学の教授レベルであり、学力はあると言えるだろう。
尚且つ素行面でも何一つ悪くはない。むしろボランティアとして地域のために動いたり、慈善活動を行ったりしている。
小学校、中学校、高校、大学と全てを完璧にこなしてきた。
しいて言えば、就職に関しても様々な分野のお偉いさん方からの誘いが来たが自分の夢である医者になるためにそれらを全て断ったものくらいだろう。
その程度で恨みを買うことはないだろうしここまではならない。
そのとき、何か頭の中に声が響いた気がした。
～～～

も7割くらいが無視される、そんなことがここ最近ずっと続いているのである。
ここまでくると何かおかしいと思うのが普通であろう。そこでこの感覚をなんと表すべきかと考えた時に、『自分という存在がこの世から消えて行く感覚』
が一番しっくりくるのでそう呼んでいる。
このまま自分はどうなるのだろう。
～～～

クソッタレな世界は

朝が来た、朝が来た、朝が来た、アサがキタ、あさがきた、アサガキタ、アさガきタ、あｓａがきｉた、ａさｇａきｔａ、ａｓａが来た、起きろ、起きろ、起きろ、起きろ、オきロ、おキろ、おｋｉろ、ｏきｒｏ、オキろ、ｏｋｉろ、

そんな金切声のような、あるいはナニか冒涜的な生物が一斉に喋ってきたような声によって叩き起こされた。

吐き気を催すような事態に胃からナニかをもどしそうだ、

そして一番気持ち悪いのはそれに少し親近感が湧いてしまっている自分だ。

なんだこれは、、、、本当に意味がわからない。

声は起きて数秒すればなくなった。しかし、それ以上に気持ち悪さのせいで吐き気が止まらなかった。

急いでトイレに行って吐く。

朝なので何も食べていなかったにも関わらず出てきたのは無色の液体ではなく

ナニかの肉のヨウナモノガ入っていた赤黒い液体ダッタ

それを見てそう判断するのに数秒、さらに完全に理解するのに数秒かかった。

ソレは赤黒かった、ソレは骨のようなものが含まれていた、ソレは指の様なモノも含まれていた、ソレは目のようなモノもあった、ソレは、ソレはソレハそレハｓおれｈａそｒｅはａ

ヒトノニクノヨウナモノダッタ

それを理解した脳は理由を探し始めたそれを理解した体はカラダのナカに残っているような気ガスルソレを吐き出そうトしたソレを

理解したメハ熱くナッタソレを理解シタハナはニオイを嗅がナイようにシヨウとしたソレを理解しタソレを理解シタソレヲ理解シタソレヲリカイシタソレをかいしたそれをりかいした

ソ　レ　ヲ　リ　カ　イ　シ　タ

ソレを理カイした自ブンは、、、、、、、、、、、、

ワ　ラ　ッ　テ　イ　タ

アア、ナンダコレハ

そこで自分の意識はなくなってしまった。

最後に見た光景は、、、、、、、、、、腕が白く、刺青のようなモノが彫られているというものだった。

～～～

1人はこのような景色を見てしまったことによる恐怖とここにいたヒ○を救えなかったことに対する罪悪感。
1人はこんなことを起こしたのに対する激しい怒りとまだ生きている○トがいるはずだと、そう思わなければ押し潰されてしまいそうな程のナニか。
1人は2人にそんなことを思わせてしまったことへの罪悪感と救えなかった○○への罪悪感・後悔、この場を作り出したナニかへの静かなる怒りだった。
3人は進む、この町の奥へと、そこに　なにがあるかも　知らずに

～～～

クソッタレな世界ヲ

アア、コノカンカクダ、ジブンガシッカリトシテイルコノカンカク。

ヤハリイイ、サイコウダ。　ダガ、タリナイ、コノママデハ。

コノママデハワタシノモクテキ

ヲタッセイスルニハタリナイ、モットダ。モットチカラヲ！

モットチカラヲ。チカラヲ、チカラヲ、チカラヲ、チカラヲ、

ソウダ、ココナラバ、コノバショナラバ！コノセカイナラバ！

コノヤドヌシノカラダヲカツヨウスレバ！

ワタシハ、サラナルタカミエアガレル!!

サア、ハジメヨウ。

～～～

〜〜〜〜〜〜
???「誰か！誰かいませんか！」
誰かが叫んでいる、、、、なんだろう、、、、、、、、
そもそも俺は誰なんだ、、、おｒｅは、、、誰ｎａんだっけ、、、、
ここは、何処だ？、、、なんで俺は倒れてるんだ？、、、、、
動けない、、、何故だ、、、、
???「誰か！、、、、、ッ！」
誰かが近づいてくる、、誰だろう、、、わからない、、、
???「大丈夫ですかっ!?」
大、上、、夫？何が大丈夫なんだ？、、、、頭が、、、痛いな、、、
???「しっかりしてください！意識を持って！」
ああ、うるさいなぁ、、、頭痛いんだから、、、、静かにしてくれ、、、
???「1人生存者を見つけました！重症です！医療班をよんでください！」
重症？、、、何が重症なんだ？、、、、、
意識が、、、、途切れて、、、、、、、、、あ、、、ァ、、、、、。

〜〜〜〜〜〜

〜〜〜

ホウカイ
アタラシイ　世界

なんだろう、体がふわふわする。、、、、、、あれ？わｔａし、、、おｒｅはなんだっけ？ここは？、、なんだ？、、あｔａまｇａ痛い、割れそうだ、、俺は、、なんだ？なんなんだ？キニスルコトハナイ
、、、、、、、なんだ？イマノは、キモチわｒｕい、、、吐き気ガスる、、、　ハヤクオキロ　気持ち悪い気持ち悪い気持ち悪いキモチ悪いキモチワルイキモチワルイきもちわるいきもちわるいきもちわるい、、、、、、、、、、、、、、、
～～～

アア、ソウイウコトカ、オモシロイ、、！
ッ！、、、、さっきからなんなんだ、、この声は、、、
艦長「、、どうしたんだい？大丈夫かい？」
「あ、、はい、、大丈夫です。、、ただ頭痛が、、、」
艦長「頭痛？、、今はどうだい？」
「、、さっきよりは、、マシ、、です、、」
艦長「そうかい？辛くなったりしたらそこのボタンを押してくれ。」
「わかり、、ました、、」
艦長「うん、じゃあ、芽衣、キアナが呼んでたから会ってあげてね。」
、、キアナ？、、誰だ？、、、
アア、アノイマワシキリツシャカ、、！
、、キモチワルイ、、なんだ、さっきから、、それに、、律者って、、、
なんだ？、、、
芽衣「キアナちゃんが？、、何でしょうかね？」
艦長「さあ、わからない。けどそこまで重要な事じゃないと思う
よ。」
芽衣「？なんでそう思うんですか？」
艦長「キアナがそこまで急ぎじゃないって言ってたからね。」
芽衣「ああ、なるほど。わかりました。」

……

２人が出ていった病室では1人の男が状況を整理しきれていない
で取り残された。その口元は嘲笑っていた。
それを　その男自身も　理解していなかった